

人権朝会 令和4年4月26日（火）

みなさん、おはようございます。今日は、少し古い動画ですが、観てもらいました。動画に出ていたエリオット先生は、まだご存命で、もうすぐ90歳。小学校の先生で、人種差別反対の活動家でした。「青い目、茶色い目、そして襟をつける」取組で人種差別のむごたらしさを体験させる授業、さらに、当時の子どもたちが大人になってその映像を観ている場面もありました。受け止め方は人それぞれでいいと思います。

この後には、人権関連の題材を扱った道徳の授業があります。先ほど、山崎先生からも趣旨説明がありましたが、この機会に、さまざまな人権問題に目を向け、考えたことを作文にしてほしいと思います。

【参考 昨年度の人権朝会での話 令和3年4月27日（火）】

さて、人権集会に当たり、今日はひとつの資料を読みます。聞いてください。

小学校4年生のとき、算数ドリルで毎日計算練習した。母が「よくがんばるね」とほめてくれた。うれしくてうんとがんばった。

テストの日、となりの人と交換して答え合わせしたら50点だった。4年生になって算数テストで40点を超えたのは初めてだったのでとてもうれしかった。今度もがんばるぞと思った。

次の日、テストを返すとき、先生は90点と100点の人を「よくがんばったね」とほめた。ぼくには何も言わなかった。返し終わってから、先生はこう言った。「今日のテスト、平均点は75点、100点とった人は6人、最低は50点！」ぼくは、母に見せるのを楽しみにしていた50点のテストを、家に帰る途中、細かく破って橋の上からパラパラと川にまき散らした。

それからぼくは、算数の勉強をやめた。

もちろん、これは奈良中学校で起きたことではありませんが、いろんな場面で、悲しい思いをする人がいるんですよね。心を痛めている人に、優しくしてほしいと思います。学校教育目標の「愛情深き生徒」を忘れないで、人の心の痛みが分かる人、思いやりのある人になりましょう。